

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A221002 建築概論	達成目標 建築で学ぶ科目のつながりを理解できるようになる。 建築学でのそれぞれの領域の科目構成を理解できるようになる。 本学での建築学と、建築士資格での領域の構成対応について理解できるようになる。 教育効果 多岐に渡る建築のさまざまな分野についてその内容や、それらの分野が互いにどのような関わりをもつのか、この科目を通して建築学の基礎を理解してもらいます。 建築は、多岐の要素が結びついているため、幅広い知識を身に付ける必要があります。大学教育において「建築学」を学ぶためには、入学した初期の段階で、その多岐に渡った要素についてよく理解し、将来を見据えていくことが重要となります。	時間短縮での授業となったため、資料内容について、復習時に自己学習がしやすいように作り直しました。 建築学全体のつながりや、その中で学ぶ内容について、理解しやすくなったと思います。 建築学では何を学ぶのか、どのような建築作品があるのか、学生たちの学ぼうとする姿勢が真剣によく伝わってきました。	授業評価は高く、受講ノートもよく書かれていました。 また建築界で活躍している建築家の作品紹介の回では、建築家の意図や作品の特徴について、写真や図を多く使うように心がけ、見た目でもわかりやすいように工夫しました。 今後は、質問や、興味のある内容について、学生からのコメントが出せるように課題プリントを工夫し、一方通行の内容にならないように気を付けていきたい。	授業評価4.44 回答率87.0% 科目GPA3.4
A221005 建築の歴史	達成目標 建築の歴史的な流れを理解できる。 建築様式の違いを理解できる。 日本や海外の建築家と建築作品の組み合わせを正しく理解できる。 教育効果 建築史学は建築学の創立以来、歴史上のあらゆる様式を理解する上で必須の学問とされています。そこでまず、そうした学問的背景と現代社会における役割を理解することが大切となります。	時間短縮での授業となったため、資料内容が見た目でも、よりわかりやすくなるように作り直しました。また、写真や図画、映像などを取り入れ、学生が建築に興味を持つように授業内容を工夫しました。 学生も授業を通じて建築での歴史とは何かを学ぼうとし、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきました。	授業評価は高く、受講ノートもよく書かれていました。 今後は、学生からの質問や興味に対して、適切なアドバイスを与えながら、自分で授業を通じて、成長を実感させられるよう工夫したい。	授業評価4.32 回答率92.2% 科目GPA3.4
A221028 卒業研究 I	達成目標 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。 そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	時間短縮での授業となったため、個々の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、工夫しながら進めた。	授業評価は高く、受講ノートもしっかりと書き込みしている。学生が疑問に感じたり、不明だったことをすぐにフィードバックできるようにしている。 今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。	授業評価5.00 回答率16.7% 科目GPA3.8
A221008 環境デザイン I	快適な居住間をつくるための方法やポイントについて理解できる。 熱の伝わり方について基礎的な事柄を理解できる。 光環境の基礎的な事柄を理解できる。 快適で過ごしやすく、省エネを実現できる建築が求められている。これを実現するためには、光、熱、風、音などヒトが感覚的に捉えている要素を量的に把握して、快適性や環境の改善に役立てる必要がある。 この講義では建築における暑さ寒さや熱の伝わり方、光の定量的表現や計算方法など環境形成の基礎について学習する。	建築における暑さ寒さや熱の伝わり方、光の定量的表現や計算方法など、パワーポイントや部分的に動画を用いるなどわかりやすい説明を心がけた。 照度計を用いた、照度計測の体験なども行った。 計算問題などは、回答時間を確保するとともに、丁寧な解説を行った。	省エネに関する知識、計算は、実務でも求められることから、多くの学生の理解が得られるよう対応したい。 作業など手を動かして取り組める内容を工夫してゆきたい。	授業評価4.19 回答率59.3% 科目GPA2.48
A221024 木造設計演習 I	木造建築の設計方法の基礎を理解できる。 軸組みの考え方を理解することができる。 部材の役割について理解することができる。 木造住宅に用いられる仕口模型の制作を行い、仕組みや部材名称、部材寸法等を立体的、体感的に理解します。 さらに木構造における木組み、納まりなどについて講述し、各図面のトレースを行いながら理解を深めます。	木造の軸組を作成する課題に取り組んだ。モデリングスタジオにて、木組みを制作するものであり、難しい部分、手間のかかる部分もあるが、積極的に取り組む様子が見受けられた。 時間外で行ってもらった作業もあったが、ほとんどの学生が完成に至ることができた。	進度に個人差があることから、フォローをしながら、丁寧な指導を心がけてゆきたい。 前半でのんびりし、期末で慌ただしく作業する傾向がみられることから、バランスのよい時間配分となるよう指導をしたい。	授業評価4.8 回答率33.3% 科目GPA2.87
A221030 卒業研究 I	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	学生それぞれの興味や取り組みたい事柄をプレゼンしてもらいながら、卒業研究のテーマを定めていった。 設定した研究や課題のテーマに関する資料収集、調査、制作などを行った。	学生個々での進度や取り組み状況に差が生じることから、それぞれの状況に応じてしっかりと取り組みができるよう配慮したい。 全体に進みがのんびりとしていることから、前半での積極的な作業を行うよう指導したい。	授業評価5.0 回答率37.5% 科目GPA3.38
U211010 インターンシップ	社会で働くことの意味を考えられるようになる。 自己の職業適性を見つけることができる。 将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。 就業体験を通して社会の仕組みやコミュニケーション能力を取得します。 ビジネスパーソンとして必要な教養や職業倫理を身に付けることを目的とします。	事前学習、インターンシップへの参加、事後学習を行った。 事前学習では、ビジネスマナー、エントリーシートの書き方などに加え、企業の選定、日程調整などを行った。 事後学習では、インターンシップ実習のまとめ、発表などを行った。 意欲的に取り組む様子が見られた。	多くの受講生それぞれと面談を進めてゆくことから、待ち時間も多くなる傾向がある。有意義な時間となるよう工夫してゆきたい。	授業評価4.76 回答率30.3% 科目GPA3.30

L221016 心理学 A、D	<p>目標 心理学の基礎用語を理解することができる。 自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用することができる。</p> <p>教育効果 哲学や倫理学、生理学の流れを汲みながら、人間関係論、コミュニケーション理論、リーダーシップ理論やモチベーション理論と関連づけられます。また、デザイン、建築などの基礎となる人間の知覚や感覚とも関連します。 建築やデザインを考えるうえで必要な、住む人、利用する人の心に寄り添うことに気づくことができれば幸いです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人数が多いため、焦点が絞りにくかった。</li> <li>個々の学生に対しての振り返り等のコメントを丁寧に返すようにした。</li> <li>毎回授業後に使用したPPTと授業ノートをユニバにて配信した。</li> <li>振り返りで出された質問にはできるだけ答えるように努めた。</li> <li>用語について覚えようとする学生とその場を過ごすだけの学生との差がわかるクラスであった。</li> <li>日常の出来事を心理学ではどのように使っているかをもっと学生の身近な事例を使って話さないと伝わらないのかと迷うことも多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキスト以外にも色々な本を紹介したが、あまり興味を持つ学生が少なかった。どうもメンタリストをイメージしている学生が多く、人の心を操るすべてが心理学であり、だから心理学を取るという学生の意見が殆どであった。</li> <li>デザイン関係や錯視についての講義はよく聞いていたが、いろいろなどころで心理学が使われているという部分にはあまり興味がなかったようである。</li> <li>細かな部分は資料にして学生の興味に沿った内容をもう少し研究していきたい。</li> </ul>	<p>授業評価4.12 回答率53.1% 科目GPA</p>
L221056 心理学 A、D	<p>目標 心理学の基礎用語を理解することができる。 自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用することができる。</p> <p>教育効果 哲学や倫理学、生理学の流れを汲みながら、人間関係論、コミュニケーション理論、リーダーシップ理論やモチベーション理論と関連づけられます。また、デザイン、建築などの基礎となる人間の知覚や感覚とも関連します。 建築やデザインを考えるうえで必要な、住む人、利用する人の心に寄り添うことに気づくことができれば幸いです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築とスマデの学生に限られているのであるが、こちらは留学生も多く、日本語の理解が難しかったようである。</li> <li>こちらもできる学生とできない学生の差が大きかった。</li> <li>できるだけ視覚に訴えられるように画像を多く使用したのであるが、わかりやすい動画もこれから探して活用していけるよう改善していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回授業後に使用したPPTと授業ノート、参考資料等をユニバで配布した。</li> <li>もう少し、日常に即した動画や画像を多めに使い、親しみやすい内容になるよう工夫していきたい。</li> </ul>	<p>授業評価3.99 回答率66.0% 科目GPA</p>
A221027 卒業研究 I	<p>目標 ・生活、地域、産業などに興味、関心をもち、調査、実践、体験などを通して問題発見をすることができる。 ・論理的に物事を考え、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・研究課題の絞り込みや目的の明確化をすることができる。</p> <p>教育効果 建築の基本から物事を順序立てて進める力、多様な表現を用いて計画を説明する力、多数の人々と協働できる力を身に付けるため、自ら研究課題（テーマ）を定め、担当教員の指導を得ながら、4年間の集大成となる論文、設計、作品の制作をします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の考えを引き出すことはうまくできたのではないと思う。表現方法にたなさを感ずるので後期はこのあたりも指導を入れていきたい。（自覚を促していきたい）</li> <li>学生は計画を自身で立てて学習を進めることができたが、詰めの甘さも感じた。このあたりの指導も後期に指導していきたい。</li> </ul>	<p>早めの調査と方向性を考えることで余裕を持って作品や論文の完成に持って行けるように話していきたい。</p>	<p>授業評価4.30 回答率100% 科目GPA</p>
A221003 住宅のつくり	<p>住宅建築の工法や構造などの専門用語を理解することができる。 建築物のありようを理解し、建築構法の作図をすることができる。 戸建て住宅や集合住宅で用いられる各種の構法や建築的な特性を含めた概略を知り、建築物がどのようにつくられるかを理解することを目的とします。また、建築に携わる者として自身の考えを他者に伝えるために、建築の工法や構造などの専門用語を身に付けることも目的の一つです。 本講義では、これらの理解と修得をもとに住宅建築で用いられる建築構法の在り方について考える基礎を養います。</p>	<p>建築構法についての作図に重点を置き、その詳細説明に力を入れた。そのため、作図のための教科書以外の資料が多くなった。 来年度は作図や用語を中心に学べる教科書に変更をし、教科書と伝えたい授業内容の一致を目指したい。また、映像での説明をしなかったが、1年生であることから教科書だけでなく映像を使いながらの授業にしていきたいと考えている。 基礎については来年度は特に詳細説明について映像を使いできればと考えている。</p>	<p>大学に入り初めての筆記試験ということ、教科書持ち込みの試験の準備がわからないとの意見をいただいた。 そのため再試験が7人と多くなってしまった。 理解度についても差が大きく、半数以上の学生はよく理解ができていたが、半数以下の学生は極端に理解ができていなかった。 大学での学びのスタイルについてもお伝えする必要があったと反省している。</p>	<p>授業評価4.14 回答率81.8% 科目GPA2.9</p>
A221013 建築材料	<p>建築物の材料に要求される事柄を整理する。 建築材料の評価法について理解する。 建築材料の使い方について理解する。 建築材料に求められる特性を理解するとともに、各種建築材料の製造法と特性について学びます。 授業で取り上げる、無垢材、木質材料、石材、コンクリート、ガラス、金属、プラスチック、接着剤・塗料、焼成材料、エコ材料などは、特に良い建築を設計するために、正しく建築材料の特性を理解することが必要となります。</p>	<p>建築材料そのものだけでなく使用されている建築物についてや現在の問題についてなど広い範囲での情報を伝えつつ基本の材料の性質についての特性を理解できるように流れの工夫を行った。 学生からわかりやすかったと評価をいただき さらに興味を持っていただけるような情報を集めつつ話をしていきたいと考えている。</p>	<p>授業内容の理解ができた学生と理解できていない学生の差が出ていた。 再試も6人と多かった。 課題の提出も出ない学生が多く、課題提出についてメールや電話など何度も行う必要があった。</p>	<p>授業評価4.25 回答率52.8% 科目GPA2.93</p>
A221023 建築設備	<p>建築設備の構成について基本的な事柄を理解できる。 電気設備、給排水衛生設備などの専門用語を理解することができる。 設備計画を行う上でのポイントを理解できる。 本講義では、空調、給排水、防災、電気の各設備について講述し、演習課題を通じてより実践的な技術を習得します。</p>	<p>学内見学をしながらの設備確認、ビデオの活用などできる限りわかりやすい内容になるように工夫をした。 照明ではプレゼンテーションを実施いただき変化も付けた。 その内容がわかりやすかったとの意見をいただいたため 今後も継続したいと考えている。</p>	<p>電気設備は工学部出身の学生とそれ以外の学生での理解度の差が大きかった。 全体についても理解度が高い学生とそれ以外で大きな差が出た。 理解ができなかった学生についてのフォローについて考えたいと思う。</p>	<p>授業評価4.42 回答率51.1% 科目GPA2.68</p>

<p>A221036 卒業研究 I</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活・地域・産業などに興味・関心をもち、調査・実践・体験などを通して問題発見をすることができる。</li> <li>論理的に物事を考え、他者とコミュニケーションをすることができる。</li> <li>研究課題の絞り込みや目的の明確化をすることができる。</li> <li>建築に関わる社会的課題、先進技術、歴史と文化などについての理解を深める。</li> <li>調査、体験、グループワークなどを通して良好なコミュニケーションや気づきを得る。</li> <li>研究や創作のプロセスについて理解し自らの問題意識を踏まえた課題設定を行う。</li> </ul>	<p>それぞれの学生が自主的に課題を考え情報を共有しながら進めることができた。問題点も早期に対応ができ完成度が高い卒業論文ができたと思う。</p>	<p>それぞれの完成度が高く、意欲も高く私自身も刺激になった授業だった。</p>	<p>授業評価4.85 回答率50% 科目GPA4.0</p>
<p>L221044 キャリアデザイン I A</p>	<p>自己のこれまでの経験・学びについてまとめ、伝えることができる。 自分軸を形成することができる。 自己に必要な知識や能力が認識できる。 人生のキャリアデザインを考え、学科の学びに関係した仕事について理解し、就職活動の準備をすることを目的とします。</p>	<p>今年度の学生は文章力が低く、話をする理解できるがまとめられない方が多く履歴書等の朱書きを丁寧に書いた。しかし、修正をしても次の課題は同じようにまとまらず、文章を書くという基本の内容から進める必要があったと感じた。ただ、就職に対する意欲や行動力は高く、時間をかけて後期に対応していきたいと考えている。</p>	<p>真面目な学生が多く課題等は適宜提出いただける学生が多かった。 各課題の採点について、面談等が必要な学生も多かった。 一律の指導が難しいと感じている。</p>	<p>授業評価4.40 回答率48.9% 科目GPA2.88</p>
<p>A221004 基礎製図 I</p>	<p>目標 木造住宅の基本的な特性を習得を目標とします。そのために段階的に、図面の記号を正しく知り、記述ができ、平面図・立面図・断面図の製図を行うことができ、基本的な住宅建築の製図を行うことができることを目指します。 教育効果 建築図面の表現方法および木造住宅の特性とプランニングの基礎を理解・習得することが目的です。</p>	<p>毎回、課題のはじめにパワーポイントを用い、製図道具の使い方や、建築図面の作図手順など具体的に解説を行い、その後、二つの製図室に分かれて作図を行った。課題説明に講義室を使用することで集中力が増し、課題への理解度が向上したように感じている。</p>	<p>授業評価は高いが、課題が図面のトレースであるため、線の意味や、記号の意味など理解して描いているのか、知識や技術が定着しているのか、注意深く見ていく必要がある。</p>	<p>授業評価4.56 回答率50.5% 科目GPA2.74</p>
<p>A221014 建築設計演習 I</p>	<p>目標 建築設計製図の基礎知識と表現技術の習得により、コンセプトワークから計画・設計までの業務に反映できることを授業の達成目標とします。 教育効果 「建築」・「空間」・「家族」の関係について考察し、設計に反映できることを目的とします。</p>	<p>教員4名により4グループに分かれての授業。 個人の能力や、進捗状況に応じて指導を行った。エスキース指導において、他学生の作品についても、自分の意見が言えるように促したが、学生同士のディスカッションまでには至らなかった。</p>	<p>エスキースにおいて、一方向の指導ではなく、学生同士がディスカッションし、楽しみながら作品のクオリティを高めたい環境づくりをしていきたい。</p>	<p>授業評価4.34 回答率64.8% 科目GPA2.36</p>
<p>A221021 建築体感演習</p>	<p>目標 歴史的評価の高い日本建築の様式、構造、材料、構法、スケール、装飾、使われ方、近代・現代の建築デザインなどについて、現地での観察や事前の解説を通じて、今後の建築を考えていく具体的で多様な視点を獲得することを目標とします。 教育効果 日本の伝統的な建築や、近代・現代の建築、建築家の作品について、体験型学習などを通じて、建築への理解を深めることを目的とします。</p>	<p>受講生がいなかったため、開講せず。</p>	<p>経済的に参加したくても受講できない学生もいたため、参加費の見直しをする必要がある。</p>	<p>授業評価 回答率% 科目GPA</p>
<p>A221035 卒業研究 I</p>	<p>目標 ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。 教育効果 学生自身が研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養い、そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。</p>	<p>卒業設計に繋がる研究と位置づけ、対話を重ねながらテーマの設定、問題提起、コンセプトを整理し、資料収集、事例調査を行った。テーマの設定では、他学生の研究について発言する機会をできるだけ設け、自分の意見が言えるように促した。</p>	<p>自分の意見を伝えられるようになってきたが、議論には至っていない。学生自らが主体的に考え、学生同士でも積極的にディスカッションできる環境を整えていきたい。</p>	<p>授業評価4.80 回答率25.0% 科目GPA3.38</p>
<p>U221011 地域クリエイション ワーク</p>	<p>目標 地域の活性化について、市民生活、産業育成、教育環境の活性化との関連性と重要性について理解している。 地域の活性化のためのデザイン・クリエイション及びまちづくり・家づくり、都市マネジメントについての知識をもっている。 地域の活性化に繋がるまちづくりを提案することができる。 教育効果 デザイン・ものづくりを通して、地域と繋がり、考察力、協調力、コミュニケーション能力など、社会人としての基礎力養成を目的とします。</p>	<p>藤川こどもの家にて、木のおもちゃのアイデアスケッチ・ワークショップを実施、そのスケッチをもとに学生がグループワークにて制作を行った。制作した作品は、大学祭で子ども達に遊んでもらった。 アンケートより、考察力、協調力、コミュニケーション能力などの向上について一定の効果はあったが、地域との繋がりについて考えるようになったか、という質問に対して、他の質問と比べて少なかった。</p>	<p>地域との繋がりを考えるようにするためには、制作に使用する木材を地元産にするなど、地域が抱える問題を共有する工夫が必要である。また、子ども達に遊んでもらう制作発表が大学祭となり、アンケート調査よりも後になってしまったことも要因と考えられるため、授業内に実施できるようにスケジュールを調整する。</p>	<p>授業評価4.56 回答率84.6% 科目GPA3.31</p>

A221020 複合構造	鉄筋コンクリート構造などの材料的複合構造の特徴・特質と部材の設計方法の概略を理解できる。 部材の構造計算方法を理解し、計算することができる。 複数の構造システムを用いた複合構造の構造設計を理解できる。	対面式の授業を実施した。スライドおよびプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を複数回行った。 UNIAPを用いて授業資料の解説を実施し、学生との質疑応答を対面授業回で実施することで学生の疑問等を極力低減することができたと思われる。	学習内容を構造計算方法の教授から、構造設計法の理解促進へとシフトした。この結果、より大きな視野で構造を捉えるようになったと考えられる。	授業評価4.31 回答率51.8% 科目GPA2.53
A221009 建築構造力学	断面の特性や不静定構造物の応力、変形を計算することができる。 多種多様な構造物（建築物）の力の流れを理解できる。	対面式の講義を実施した。 スライドおよびプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を毎回行った。 UNIAPによる授業資料配信により解説を行い、演習時間を十分に確保することができ、個別のフォローも実施した。	学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベルに乖離が見られたため、授業課題や定期試験を含めて見直した結果、若干は正された。	授業評価4.25 回答率61.9% 科目GPA2.94
A221029 卒業研究 I	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	授業の性格上、個別指導となる。 全体的には、テーマ設定に時間をかけるとともに、それをレポート化するともに、他者に対して説明できる能力の育成に重点を置いて指導を行った。	実験系の研究テーマを中心に予定通りのペースで進めるように指導することができた。	授業評価 履修者人数の関係上、非公表
U221007 福祉社会のクリエイション	「福祉社会の構築」という切り口で、福祉社会における現況と問題点、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習・理解し、福祉社会の実現に対する具体的な取り組みを試みることを目標とする。 福祉社会を支える都市的ハードから生活のソフトまでをどのように創造するかについて、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習し、全ての人が過ごしやすい都市、生活空間を創造するための提案ができることが期待される。	課題提出は授業当日までとした。 受講生は16名で、1～10回の講義後、11、12回でグループのテーマを決定し発表資料の作成、13、14回で発表会を実施した。 グループのメンバー構成は教員が指定し（1グループ4名）、他学科の学生とグループになるようにした（遠隔希望学生が各自で作成）。 4グループ全てが期日までに発表資料の提出がされ、全てのグループが発表できた。 昨年同様、教員が指定したグループでの発表会であったが、昨年ほどグループワークが大変であったとの意見はなかった。これは、受講人数が昨年度より少なかったため、グループワークでの教員の指導が適切にできたためと思われる。学科学生とのグループワークから学生は様々な考え方があることを学ぶことができたと考ええる。	科目GPAは昨年度の2.52と比較し高かった。これは、90分の対面授業ができたためであると考ええる。 授業評価に関しては、昨年度の4.087と比較し高く、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものとする。 達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、工夫を行いたい。	授業評価4.37 回答率75.0% 科目GPA2.63
A221010 建築CAD I	具体例に沿いながら、CADの基本的操作方法を習得すると共に、より効果的な図面作成とプレゼンテーションの能力を身に付けることを目標とする。 CADシステムを用いて建築設計図面の作図方法を学習し、図面の精度、表現力を高める授業である。具体的に住宅や事務所等の建築について2次元CADによる平・立・断面図等を作成し、さらに作成したデータの加工・編集、プレゼンテーションまでを学習することが期待される。	教員1名で2クラスを受け持ち同様の授業を実施している。 必修科目のため受講人数は47名で、コロナ感染拡大防止のため、遠隔授業希望者が数名いたが、履修生は積極的に取り組んでくれた。 当初は画面で逐次作業手順を説明し、作業に慣れた時期から、授業開始時に課題及び進め方の説明をし、各自が作業を行う方法をとした。 学生からの質問や不明点については、全員で問題を共有し、逐次説明を行い素早く解消できたと考ええる。 毎回の提出物のチェックも行い、間違いを指摘し修正するという作業を繰り返すことで、学生の正確なCAD技術や知識の向上に寄与できた。	科目GPAは2021年度の2.74と比較し高かった。 授業評価に関しては、回収率が昨年度より低いため、十分に達成目標を達することができた状況と判断することは難しい。もう1つのクラスと比較すると授業評価が少し低いのが、履修人数がもう1つのクラスより多いことが原因と考えられる。 本年度はSAを用い、CADが不得意な学生にはSAに集中的にフォローさせるなどの方法をとった。そのことで、授業評価が上がったと考える。	授業評価4.39 回答率46.8% 科目GPA2.83
A221011 建築CAD I	具体例に沿いながら、CADの基本的操作方法を習得するとともに、より効果的な図面作成とプレゼンテーションの能力を身に付けることを目標とする。 CADシステムを用いて建築設計図面の作図方法を学習し、図面の精度、表現力を高める授業である。具体的に住宅や事務所等の建築について2次元CADによる平・立・断面図等を作成し、さらに作成したデータの加工・編集、プレゼンテーションまでを学習することが期待される。	教員1名で2クラスを受け持ち同様の授業を実施している。必修科目のため受講人数は41名で、コロナ感染拡大防止のため、遠隔授業希望者が数名いたが、履修生は積極的に取り組んでくれた。 当初は画面で逐次作業手順を説明し、作業に慣れた時期から、授業開始時に課題及び進め方の説明をし、各自が作業を行う方法をとした。 学生からの質問や不明点については、全員で問題を共有し、逐次説明を行い素早く解消できたと考ええる。 毎回の提出物のチェックも行い、間違いを指摘し修正するという作業を繰り返すことで、学生の正確なCAD技術や知識の向上に寄与できた。	科目GPAは2021年度の2.74と比較し高かった。 授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものとする。 本年度はSAを用い、CADが不得意な学生にはSAに集中的にフォローさせるなどの方法をとった。そのことで、授業評価が上がったと考える。	授業評価4.43 回答率68.3% 科目GPA2.83
A221031 卒業研究 I	授業の中にディスカッションを行うことを通して、意見を相手に伝えられるようになること、自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることを目標とする。 建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定し、これを研究成果としてまとめるようにする授業である。テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力や、他の人に伝える力を養うことが期待される。	履修者数7名。履修者は概ね積極的に取り組んでくれた。 履修者により研究の進捗状況が異なるため、毎回やるべき内容について打ち合わせを行い、各自のペースでできるような環境を整えた。また、研究の進捗状況を全履修生と教員で共有し、各自のペースや現時点での課題なども共有するように心がけた。	科目GPAは昨年度の2.17と比較すると低く、授業評価も昨年度の5.00から比較すると低くなっている。これは、昨年度は回収率が16.7%と低く授業評価が高い学生に回答が偏ったものであったと考えられるが、今年度は回収率42.9%になったためであると思われる。 研究論文が不得意な学生もいるため、進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫したい。	授業評価3.87 回答率42.9% 科目GPA1.00

A221006 建築計画Ⅰ	建築計画のために必要な視知覚の感覚や、身体と人間行動について理解することができる。 建築の計画の方法を理解することができる。 用途別による建築計画を理解することができる。	同時期に行われている建築概論からの流れも配慮し、初学生にも興味を持ってわかりやすく伝えるために、視覚的に把握しやすい資料を用意した。また、定期的に調べ学習を取り入れ、授業で学んだ用途の建築事例についてより理解を深めてもらうようにした。また、授業時間内には、授業内容確認のための確認演習問題を行い、学習の定着を図った。	昨年度の反省を踏まえ、調べ学習や確認演習問題が提出することを目的としないように。都度、学習の目的と意義を都度伝えた。 シラバスに示されている達成目標の達成についての評価が低かったため、次年度は達成目標が達成したと認識されるように資料の充実や、授業進行方向を再検討する。	授業評価4.51 回答率76.6% 科目GPA2.66
A221007 インテリアデザインⅠ	住空間の機能、素材や色彩、光、設備、寸法、デザインスタイルなど、住宅設計やインテリアデザイン、インテリアコーディネートに求められる基礎知識を身に付け、簡単な住宅のプランニングができるようにする。また、「生活」と「もの」、「人」と「空間」の関係についての基礎を学び、住空間の機能、デザインスタイル、色彩、基本寸法などの住空間におけるインテリアデザインを理解することを本講義の目的とする。	同時に開講されている建築設計製図Ⅰの住宅設計を意識し、住宅設計をする上でヒントとなる住宅の機能やインテリア空間内での心理効果、動作空間などの基礎的情報の提供をするものとした。さらに、後期に実施されるインテリアデザインⅡにつながることも意識し行なった。また、本年度より、資格試験取得を視野に入れた授業内容に変更したことで、資格取得に興味を持つ学生が増えた。	昨年度の改善点として、いつでも資料を確認できるようにし、授業の内容を再度学習しやすいものとした。資格取得に向けた意欲的な学生を意識したが、興味のない学生もいるため、必須であることを鑑みて授業内容を基礎的なものにする。	授業評価4.43 回答率66.7% 科目GPA2.92
A221017 インテリア設計演習Ⅰ	インテリア設計の基本的知識と表現技術として、「家族」・「住まい」の各関係と基本構成要素、基本的条件、エレメントの学修を通して、コンセプトワークから計画・設計・コーディネートボードまでできることを授業の達成目標とします。	まず、家族や住まうことについての基礎知識を学び、そして、建築ストック増加の社会問題を知ってもらう。その上で、内部空間の空間計画や、演出方法などを事例を通して学修し、それらを踏まえた上で価値のある居住空間の提案をしてもらった。 プレゼンテーション技術も習得しつつ、コンセプトボード、各種図面、マテリアルボード、コーディネートボードを制作した。 インテリアエレメントの選定も実際に販売されているメーカー商品をカタログから選定することで、より実践的に学び、就職活動時のポートフォリオとしても活用できるものを意識させた。	履修者数全員が異なる提案をし、また、それぞれの技術も異なるため、個別に対応した。 身近な住宅の設計であるが、空間の提案がCADソフトのデータや技術力に制限される傾向があり、他のソフト活用や表現方法の技術向上もできる授業内容を再検討したい。	授業評価4.25 回答率43.3% 科目GPA1.83
A221034 卒業研究Ⅰ	ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることを目的とし効果をえられるものとする。	卒業研究Ⅰにおいては、高等教育の総合成果として、社会的な問題に注目し、調査・分析・考察・提案する能力を身に付けられるように対話を重ねおこなった。大学最後の課題になるため、学生自身が考えたテーマの研究成果が出るように、タイムマネジメントやタスクマネジメントが自主的にできるよう誘導した。学生が自ら疑問に思っていることを引き出し、それぞれの考えるテーマに近い既往研究や事例を紹介し、研究方法や調査方法など対話を通して進められるようにした。	16週と限られた回数での実施になるため、時にはこちらから先回りして指導してしまうこともあるため、学生自ら動き、考えられるように見守ることもしていきたい。しかし、それぞれのペースも把握し、個別に対応するようにしたい。	授業評価4.93 回答率75.0% 科目GPA2.63
A221012 建築計画Ⅱ	商業施設・大型店舗の立地性と施設構成・業種構成が理解され、モデルの構築と商業施設計画への応用が出来るまでを達成目標とします。	さまざまな学生が興味を持ちやすく、わかりやすく伝えるために、視覚的に把握しやすい資料を用意した。また、定期的に授業で使用した教科書の内容を問題化して出題することで、理解を深めに定着しやすいようにした。 図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。	カリキュラム・ポリシーに基づいて建築計画での専門性をより高めることを目標とした。 今後は建築を計画する前には、その用途の過去作品を分析し体系化して把握したうえでアイデアを出すことの重要性を伝えたい。 コロナ感染関連で毎週のように欠欠の学生が出たため足並みを揃えるのにいつもより少し苦労したが、1コマの授業時間が通常時間の90分に戻ったため前年までよりも対面授業時間が確保でき、コロナ禍前の指導時間に戻ったので、学生としても良かったのではないかと考えている。 図版の提示などに増えた時間を割いて、より質の高い指導ができるように考えている。	授業評価4.13 回答率66.3% 科目GPA
A221037 卒業研究Ⅰ	達成目標 ①授業の中でディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。 ②建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けてテーマを設定します。そして、これを卒業研究としてまとめます。 ③所属する各研究室において、研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養っていくこととなります。また、そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。	前期の卒業研究Ⅰでは、後期では卒業設計を選択したい学生にも能力向上を考えて全員に卒業論文を選択してもらった。課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。決定事項及びアイデアをまとめさせ、チェックバック方式で効率の良い授業となったと考えている。	各過程をチェックし進行具合を把握するために登校は一つの起点として重要と考えられる。 また、達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、少人数による対応など考えていきたい。 1コマの授業時間が通常時間の90分に戻ったため前年までよりも対面授業時間が確保でき、コロナ禍前の指導時間に戻ったので、学生としても良かったのではないかと考えている。図版の提示などに増えた時間を割いて、より質の高い指導ができるように考えている。	授業評価4.7 回答率50.0% 科目GPA

A221019 建築生産	建築生産、住宅産業などについての基礎的知識を理解することができる。 建築生産および管理にかかわる社会的環境と産業構造、歴史、関係業界と職能、生産プロセス、管理の領域と内容、ファシリティマネジメント (FM) などについて理解することができる。 講義で養った知識を建築の建築計画や建築生産に取り入れられるようにすることができる。	住宅のつくり、建築施工など先行する学習内容を踏まえつつ、さらに発展的な内容を学習する科目ながら、既習科目に対する学生の理解度にばらつきがあり、どの程度のレベルからおさらいの内容を進めるか試行錯誤した。また、PowerPointを使った事例の解説・説明は、大半の学生が意識を集中することができないため、手を動かすワークを大幅に導入せざるをえない。こうした状況への対応が、結果的に場当たり的な授業進行になった面の否めず反省点となった。	講義内容からしても事例を通した理解・学習は必須となるため、授業内容の整序を行い、ちゃんと学生が意識を継続させられるよう授業資料、課題内容を再編していききたい。	授業評価4.39 回答率51.9% 科目GPA1.92
A221018 エクステリアデザイン	建築（主に住宅建築）のエクステリアデザインに関する専門用語を理解することができる。 エクステリアデザインがどのようになされているか理解することができる。 外構計画のオーソドックスなプランを読み書きすることができる。	住宅プランニング、建築計画Ⅰなど先行する学習内容を踏まえつつ、さらに発展的な内容を学習する科目ながら、既習科目に対する学生の理解度にばらつきがあり、どの程度のレベルからおさらいの内容を進めるか試行錯誤した。また、PowerPointを使った事例の解説・説明は、大半の学生が意識を集中することができないため、手を動かすワークを大幅に導入せざるをえない。こうした状況への対応が、結果的に場当たり的な授業進行になった面の否めず反省点となった。	講義内容からしても事例を通した理解・学習は必須となるため、授業内容の整序を行い、ちゃんと学生が意識を継続させられるよう授業資料、課題内容を再編していききたい。 こちらの手応えに反して、授業評価が高かったことに感謝しつつも、複雑な思いがある。 満足度に学習効果が伴うように工夫をこらしていききたい。	授業評価4.33 回答率48.3% 科目GPA2.71
A221025 住宅産業論	住宅産業に関連した専門用語やトピックスを理解することができる。 ハウスメーカーによる住宅がどのように生み出されているのか理解することができる。 これからの住宅産業の展望と課題について自分の意見を述べるすることができる。	本学科学学生の多くが選択する進路先として住宅産業がある。そのため、本講義内容は就職先に大に関わりつつも、実際には就職後には学ぶことが少ない内容を取り扱う科目として、重要な位置を占められると思われる。しかしながら、4年次開講であることもあって、受講学生の大半は、卒業単位不足による履修となっている。対策として、質的な話題を抑制して、手を動かして学習する講義内容に変更したものの、十分な対応ができなかった。	新しいカリキュラムのもとではじめての開講とあって、受講者層やそうした層の学習傾向に十分な対応をとることができなかった。 定期試験でも、教科書持ち込み、かつ、要点を何度も確認したものの、多くの学生が不合格となった。なんとなく受講し、なんとなく試験準備もせずに試験に望み、でもなんとなく合格になるという流れがしっかり身に付いてしまっているようで、これはコロナ流行に伴う遠隔授業からの誤学習とも思われる。とはいえ、そうした傾向を踏まえつつ、授業時の発問、定期試験対策等々、すこずつ学習姿勢の改善を促していききたい。	授業評価4.28 回答率42.2% 科目GPA0.98
A221026 不動産プロデュース	土地及び建物に関連する権利関係・法令上の制限（特に民法、宅地建物取引業、建築基準法）を理解し、不動産管理について理解することができる。	宅地建物取引業関連の内容とあわせて、不動産プロデュースに関する学習内容を加味してスタートした新カリキュラムであったが、実際問題として不動産分野に興味関心がある学生の履修は限定的で、卒業単位不足による履修が大半を占めた。4年次開講であると同時に、入学時からの単位大盤振る舞いが影響しているものと思われる。 対策として、質的な話題を抑制して、手を動かして学習する講義内容に変更したものの、十分な対応ができなかった。	本年度の反省を踏まえて、価値に関する話題は、なるべく事例紹介を通して伝えるようにし、その他の授業内容は、宅地建物取引業関連のシロクロがつきやすいワークを取り入れるなどして、実りのある学習時間となるよう改善を試みたい。	授業評価4.52 回答率45.5% 科目GPA1.70
A221036 卒業研究Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活・地域・産業などに興味・関心を持ち、調査・実践・体験などを通して問題発見をすることができる。</li> <li>論理的に物事を考え、他者とコミュニケーションをすることができる。</li> <li>研究課題の絞り込みや目的の明確化をすることができる。</li> </ul>	学生個々の関心や進路希望先に沿って課題設定をともに行い、情報収集・整理から言語化、図表現などを実践する授業内容としてなんとか展開している。ただ、毎週、進捗報告からの打ち合わせ・指示のサイクルが極めて遅く、なかなか成果が積み上がっていかないのが現状である。さらなる具体的な指示、課題の細切れ化を行うことが肝要だと痛感した。	左記反省を活かしつつ、具体的な指示、課題の細切れ化、スケジュール管理の習得などを個々の学生に応じて対応していききたい。	授業評価4.60 回答率71.4% 科目GPA2.00
A221022 建築設計演習Ⅲ	立地環境や建物の構造を理解して、設計図面（配置図、平面図、立面図、断面図）作成できることです。建築のイメージを表現できる手法と、伝えることを習得することを目標とします。 中規模施設を設計する構想力をつけることを目的とします。また、建築物の外部（エクステリア）・内部（インテリア）の生活シーンをイメージし、さらに周辺環境とのかかわりを含めて検討するなどの空間設計力、構想した建築空間をより分かりやすく相手に伝えるための図面表現力も養います。	授業の流れは、毎回設計の成果を対面でプレゼンして、問題点を議論し設計を進めていく。 個々の学生のデザインに応じ、計画、技術、環境などに沿った設計指導の授業であった。	達成目標に対する授業評価を高めるには、学生の個性に応じた指導の対応などを考えていききたい。	授業評価4.40 回答率62.0% 科目GPA2.54

<p>A221033 卒業研究 I</p>	<p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。 建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定します。そして、これを卒業研究としてまとめます。そのために、所属する各研究室において、研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養っていくこととなります。また、そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。</p>	<p>課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。遠隔授業では対面授業までの間に、決定事項及びアイデアをまとめさせ、チェックバック方式で効率の良い授業となった。</p>	<p>達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、少人数による対応など考えていきたい。</p>	<p>授業評価5.00 回答率12.5% 科目GPA4.00</p>
---------------------------	---	--	--	--